

年頭所感

一般社団法人日本宝石協会

理事長 伊藤 彰

新年おめでとうございます。健やかに新春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

昨年は年間通して一千九百万人に達すると報告される外国人が日本を訪れ、中国人を主とする東南アジア諸国からの観光客による爆買いが話題となりました。日本製家電製品、化粧品だけでなく、宝飾品でも売り上げ増が報告され一般消費を下支えしていました。

六月中旬をピークとする中国上海株式市場の大暴落バブル崩壊を受け、世界的に経済が停滞してきており、色石の流通センターであるタイ、スリランカにおいて業況の停滞が著しくなっており、東南アジア諸国での日本への観光客の減少も報告されています。

年末には、米国が四十年続けていた原油輸出処置を解除、連邦準備制度理事会(FRB)のゼロ金利政策の解除により九年半ぶりに政策金利が0.25%利上げされましたが、折からの国際原油価格安に拍車が掛かり、世界中での利上げが検討・実行されると思われれます。

本年に入り、各国と日本との金利差拡大により円安が進むことも考えられ、原材料を含む輸入品のコスト増が一般消費にどのように影響するのかを注視する必要があります。

このような情勢の中、日本宝石協会(JGS)は昨年にも増して一般消費者にも分かる宝石の価値評価システム構築を進めています。英国宝石学協会(Gem・A)認定教育機関として宝石学教育の普及に努めると共に、Gem・Aが薦める品質判定システムも視野に入れて業者と一般消費者が同じ指標で語り合える、透明性の高い流通環境の構築に一役を担いたいと考えております。

JGSは一月十五日大阪で開催の第十回シンポジウムを始めとして体験学習の場としての勉強会・シンポジウムを提供して参りますので、皆様にはこれらの機会を有効にご活用いただき、本年が大きな飛躍の年となるようお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。